玉弦緒繰分

序并図録

ホ 2
642
1

加2
642
1

義門大德著　全五冊

玉篇指繰分

京攝三書房合梓

福井藩
明倫館
圖書

○玉篇指繰分

○序一

[illegible]浄土宗[illegible]狭国
小濱[illegible]義門[illegible]八年[illegible]
[illegible]新書[illegible]
[illegible]
若[illegible]和語説略図[illegible]

二種あり一を詞乃玉とし
書り和八好こゝかの略図ゆゑ
見せるなしれと猶してもの略る部類
今一は玉緒繰分とし
雑の部きとし雑つゞけ乃玉佐宣長

この詞玉緒の部を見かゝなは
正一部分別出乃古詞
元来はこゝ解そこゝ
部のよわてゝ乃詞乃又屋
使り乃乃事とゝ

玉緒繰分目録

此くりつけをこゝに人ハ必詞の玉緒一部と略図一部とをかゝ
らせ給ひてしてみべし、ちるハ此目録のこゝをこゝに便りもなりさ
て又は目録みて本文を早く解とる助とはべきよりをあり
十九左〳〵そかづ〳〵いづのづ活く枕ことばいとへるが如き、此目録と
見て、本文氏先十九左〳〵いでと云て〳〵いぢといはゞ、〳〵そかぢ
〳〵云て〳〵そかでといはゞ、と云へるをよく考得べきなり、

○氏巻目録

一丁右　くりつけ進れるたこう
二丁右　後鈴屋翁のことのがこう

□右　かゝこれ人の詞をこゝゑめめれるぢなる事
□　氏爾乎波の数の最さよりと思えるくハゐ緒なるこゝを
三丁右左　○△◎のをゝりの凡例
□左　本書玉の緒に歌紀文紀とをけるるふきての事
四丁右　うちびあふといふとゝうるへあハ仮るとゝ云ゝのをゝ先
□左　くゝのへ〳〵のひゝ　ゑゞめ　ゑゞゑの類自化相とゝるく事
九右　かり〳〵あを字〳〵詞まるうれこと
□　後の世といふ詞の義
□枝　岐くなれはつ　ゐ　ゐる　ゐど云へるところへと一つつゝ
と入まかゝきよう

□左　のゝむもびこてあうだこてきれうる例
□　仰の結びの中にそきれうる例証
六右　のゝ結びのゝなる事
□　こきてきのこての詞の右ら義
□左　のゝむもび尓〳〵なる例
□　ありとハきけどゝるよゝもなきといふる事
七右　仰の結び尓〳〵れ事
□　こその結び尓〳〵の例
□左ヨリ八右　ちき　せ〳〵　せ〳〵と云なる例
□右左　石年の宮こやゝうあそびて」の字れ校異　一二五の三句いつれも異
□のてこをは考べきあり

八左　何とめて図して何とそとうたもゝ玉ぬきあるぬことの詠め

九右　しゝと留るうめくりの事并じハ截キるゝ仮ゝぢる事

十右　あるれゝと活きてあ文字の截断言とあるハりと有あといふ

詞一つある夫と

月右
十左　なりゝきるゝ詞を受るゝとつゞくをあるとの二つ有る事

十一右
十左　たの留りたりなる又そ[illegible]る[illegible]行るるの例ゝハべき分のき

十二右　何の詞下ふりといまゞしてゝ[illegible]ると活へる分

十三右　たの活びめりのたしうあるゝ例

十四左　や
何
める
こそと云ひてめれと留る分

十三丁　四段の活語のけせてへめよりられると活ある詞ゝそ留さ

るゝゝども

十四右　万八五二うくぞもゝ[でるる]の分ハ或説ゝよれバゝれ詞ゝあゝぬ事

十四左
十五右　誰ゞ何といふゝ等しきさ為ゝそ誰ぞ何ぞなどいへる例

うゞ[illegible]ゝあゝ[illegible]れきいゝと事て何ら誰ら結ゝさの事

十五右　紫式部の無注ぞ位めるとよめる分のてふもの義

十四　めるとつるゝの大よそのゝとうれめ

十四左　為来得寝経と類へてあれど為来ハ別ゝ一種のゝゝきれ

金ゝ然らぢる事

十六右　徒るゝいゝ詞ハ一種別ゝゝ活用なる事

十六左ヨリ　玉緒なる川音の中ゝ外の処へ移りて可なんがなる海め
十七右　のと云て落る」やと云て来る」と留れる類、并一首の終れ上ゝて
　さる活びの二処にる云もある事
同左ヨリ　う右うゐゆうれと一処あゝ活ほしきもの
十八左　こぐる八向くる此二のくる、その活きめと同しかゝぬ所
十九右　佐行下二段活の痩す、多行下二段活の出づれ留の一首の中
　でなる例
同　恋の証句の事
同左　そほづいづのづ、活くやうハ中二段と下二段とあかれ者事
　のの活びつると云る句れ所

同ヨリ二十右　六帖なる　そほづれ　といつる二引うへて同書なる出づれを
　出さだやゝ思ふ事
同右　往ぬのぬと尋ぬのぬとハ活き別きなる所
廿右　ゑなる　遠なるの二つも活らきさま同しうゝぬ所
同左　手をみなべゝ後ゝ言や玉そふるのふハなるべきうれ事
廿二右　知なる　遠なるのふると生なるのふるとの用きさ活同し
同　うらぬ按精ゝ辨ふべきうぐ
　佐の例証のをゝてきれる、英 活む の中ゝそ截るなんゝ
　てきもてゝる 云云
同左　ハよむのむ ハ下二段活なる 恨むのむ ハ中二段活なる を同つゝ引るハゝ細ゝし

うゝぬ事

廿二左　一首のまゝてきれる行［illegible］るの例

ヨリ廿三右　こゝやまをこゝやあと出語れる事　英こ［や］［ゆる］の証句のいゝゞ

ちき事

ヨ　紅徒の証のるの［illegible］れ補

ヨ　ちくをちて〳〵得れる事　英ヨ彫刻者の失の事

ヨ左ヨリ廿四右　うゝ　うくる　うゑゝと緒コハらゞ　うゑゝと緒のなり　の例証出べき図

ヨ右ヨリ廿五右迄　玉の緒卅六丁左［テ］［と］［徒］などある下へ補入すべき証句

ヨ右　白ハれる〳〵の辨へ

玉の緒卅七丁より四十丁までの処〳〵へ補入べき例とか

ヨ左　［と］のうりて［る］と結べる句

廿六右　花ゆゑ小云云　云云〳〵［きん］の句に付ての義

ヨ　なめと活くハ推ハうり、或ハ作れるなん　なり、然ハ活うぬハ頼ム

ゝのなん　まて、三ヶ所コあるとなるぬとあれど其なめゝハ

れぬなん　もぞや何へハかゝらねど［の］へハ狂〳〵る事

廿七右　けも徒又の乃結なる頼ム句のなん

ヨ左　ねも作れる句のハ連用　云を文　と形ム句のハ將然　云を文　とける事

ヨリ廿八右　ぞ〳〵かゝりて形ム句のなん　まて結へ文とみゝゝるた字ハ活

かどなる事

ヨ　［illegible］ハ活らぬ詞と決む可し歌事

廿九右　[徒]の留りまゝの事

同　[の]の留りまゝの事

同左　[てそ]のむすびのまゝハ郎[伺]の結びのまゝの活なる事

三十右　まゝを三結の外とハいふ可し事

同　らゝ右くハらゝきとも云ひ〳〵欲く思ふ故あと

同左　はゝハきるゝ詞にてらび　りゝてつの活きめつの連用云ニ[illegible]

もる語なる事、はゝの事ハ月巻四十二[illegible]

已下をも見ればなり〳〵

三十二左　うゐハ活らうぬ辞

廿三右　初学を教へるる[illegible]　ぞこそ　もまろ〳〵にようてとれようのうつり思きや

といふて張ぶ〳〵思ふハ非るまと

自下玉鬘二巻

同　[illegible]ぜこ　已然を受るゝ　將然を受るゝ　意得るべきこと

同左　まゝ[illegible]ハ將然のあり礼已然なるまと

廿四右　おろ〳〵なる涙ぞ袖に[illegible]の奇礼をうりようゝへる処ハせきあへぬ

なるへきう礼事

同左　らゝ[illegible]ぜと留れるもまゝ[illegible]うぜと留れるもたゝ上へあるとハ

意を含むといふる事

廿五左　[illegible]をとをゝりて[illegible]て上へうつりての留り処を故〳〵に物せる[illegible]

同　[illegible]ちその留りあゝても上へ及らぬ下に意を含めて云捨るいふる事

廿六丁　[illegible]べくより上へうつりて留る詞のたぐひ　ようく長く　[illegible]

多かる事

卅七右　連用云を一首のをハりニおくる例これ少くして□夢
も□例ある事
□左　□
べくより上へ及るハ多くハ作ル詞希求の詞頼ム詞などなる事
卅八右　形状言の連用云どもりの字まれニハ希求云などならぬ詞へうへれるもあるあを
□左ヨリ　一首のをハりより上へうりて留れる例ども稀〻
卅三右　躰言どもりの字
□　主なる語辞の事
□左　変格　ゐぢ〻定例をづん□くる□する□ゆる□の類ひある事

卅四右　連躰云留りの字ニハ上ニさへと□ふ詞の有ゞ多き事
□左　連体云留りの字ハ必いひのこせる詞あるあを
卅五右　志ら波　誤写の事
□　あにまちらめやの事
□　いっちりと」とよむあ〻
□左　いづれ□ほどへぬ、いづれ□ぞ□ぬ□といへる語格
卅六右ヨリ　いく□結び〻つ□をハじめそれ〻の例あまたあるに附て論
卅七右　淡路ゟ云拾遺ぬ□を□の異本などの事
□左　□れはつ〻いへる語格
卅八右　そのや何の末をきるく詞ニて留ることおがしき例ども

四九右　てゑを仕不調有小附てのこと

同　ゆるゝ[き]もなき々誤字のかゝこそあれのさゞ

五十左　彩勅十八拾ゝ云云自て後人のあやまりらんみの事

同　花ゝゝそゝ[色]とあるゝつきてゝ□取ハ容易くにまぎ

ゝ

五一右　夏歌を深しゝりる山川ぞゝのぞ。

同　歌仙集校異の一本の事

同左　そゝかちつゝの三ゝ曲たるハ実ハ未ゞ云ゝまらぬ歌べき事

五二右　祝ゝくぞゝ[色]字誤などゝるゝ〳〵の論附彩恒集のまゝ〳〵ゝ

たゝるのゝそゝありけん[ん]の事

同左　貫之集云ゝ　鈴屋のいまゝゝゝれさりん異本のやう

五三右　万葉の歌をあゝしゝう誤て歌仙集ゝハのせゝ云云事

同　おもゝげを[いゝ]ゝゝれぬ云云[ハ]本歌どりのあらんの考

同左　於六　旅ゝゝバ云ゝ　字誤あゝんのさゞ

同　まゝがゝれ云ゝ

五四右　ゝゝざゝき秋の塩ぢを[の]の歌の結句ハ今の続千載ハ字ゝ誤

なゝる事　附え捕集のゝゝざゝき云云

同　ずゝゝの活き友鏡改むへき事

同左　悪ゝきゝう云ゝゝるきゝゝち[ゝゝ]ハ変格なゝる

五五右　ゝゝもゝゝありとこそきけ[け]と云へく思ハるれゝちハゝゝゝ

○玉のを乞分

五五右　いやしげ[illegible]てとくの八ゞ」と云べきなり〜ざこうる

同左　一本て小を代を語れりといふ字に付ての論

同　八れなみの[illegible]色をむらへて梅花」の句「[illegible]」の事

同左　はまの実云云なれもうなり〜や」を「なり〜き」とうるゝ、知りて

よろしうらんと思ハるゝ趣意

同　仁と[illegible]」の義

同　うひよとハなり〜」の句の事

○爾巻目ろく

一丁ヨリ　行くの結びといふハ詞の截断〜止り治る処居る処をいへゝ

るあり

三右　ぞと云てるゝ前りこそと云てもとゝ為る互に云ざへうよへる

もあり又必ず云ざるもある事

同　むゝのこと云て不[illegible]のことなれる八五月雨の句に限る不非る事

同左　五月の名をちこぐれといふ欲の義

四右　将然連用截断連躰已然とおのゞゝあるついでの事截断云

の事中にあるゞ用、

同左　[illegible]なゞとて[illegible]とゝ又て[illegible]とふ[illegible]ゝの久ぢめの大うる

五丁　[illegible]てゞゝ[illegible]ばを約め云ゝいふひゞ説の事

六丁右　だゝと云ゝちめゝうる事にハ已然受へゝるゞにても将然受へゝるゞ

にてもまぐて余意を含める多ゝ事

六左　ほどをへてろ〳〵とくだやの家れ初句てだうて（清）れうれちぐ

二右　ゑれいゝこ有といのちるれ四の句のてだ

八右　あひ又そだちぐさむやとぞ」のてだ

同　将然云受るだの末ハ必まゝ〳〵べゝおどの十一の辞こて表ゐる定〻

同左　ちだてだの大判も

九右　輾轉こいまろびおだたのよみさ函

同　業式郭の集このれるある人の家拍き他ゆる引両横こ又云こ

ろあゝ

同左　ゑれたハまゝ〳〵表ゐる事

二右　将然云ろムるだ（濁）連躰云ある小意ゐる辞の家カノ

同左　まゝうたハ已然云ちれどりと将然云中の已然云ある意味

同　ませだハまゝ〳〵せだのつゞまりといふハ至らざらんのちぐ

十一右　ませだのせハりゝ表るといふ佐行変格活詞ある事

同左　将然云受ゝるだの末まゝこ限らざる事

十二右　ぬこの家のねだゝ同ト類こてもぐてふふの家のへだつふの

家のてだろふの家のまだるど生例多ゝるあゝ

同左　もこぐふといへるぐめくあるゝり又亦（モシタ）の言ある類の事

十三右　も字一ッありて家ハも二ある処と半ある例

同左　一ッもとのゑいひ今一ッをもといひて二とも家ハをもある例

同　こせも家らせもハ狂こせん笑らせんるべき欲の事

十四右　とても世ニおどいへるとても八殘しき詞づろひなるえ〳〵こ
同　よもぎがゝれる拔字の云とのこいふハ當〳〵ざらんか論
同左　ぞ〳〵くりて哉といへる八写〳〵ざる事
十五右　夕ぐれめでゝを　わもるそぞ
同　ぞもと問ふくる詞のもハうろく添くるのこニハ非る事
同左　ぞもの結びを例の連躰云ニて物せるある事
十六右　万一巻の我許曾者〳〵ある一本ニ考ても、円十生の梅花毛を考
ふべきよう
一　ぞや〳〵截るく仮
同　尺八伝ぞのゆゝんぞと云云のぞ

同左　いくそだ〳〵」のそハ十の云ふの事
同　もぞ〳〵ぐれ〳〵ハうる〳〵おゝ〳〵ハうりてあやぶむとゆくこふ
十七右　もぞハ連用云或ハ躰言を受る事
同左　新勅の哥の出〳〵やう
十八右　志もぞといふ辞ニ却りての意含めるゝ含ずゝる〳〵肖事
同　のハぞや何よりハ軽くてハも使ニやくゑぐふもあるおゝ
同左　何〳〵のこゝぐ〳〵おりるお多うれどのの結びのべ〳〵とハ云ふ
ゞき事
十九右　のハ結びハ大方連躰云なれどをり〳〵ハ截断言〳〵て結べ〳〵
もあるこを

十九左　神のきりゝん」一本「神やとあれゝん」ハいづれにまれきゝ
なるあゝ

二十右　ののむすび」とゝうちまうせていひ出し例にハ、拾玉の「殿の神」の一
ありにゝり」ハ、定例三條大納言の結びにハ変れる例なれバ、形容
条なる「衣ゝ」の「ゝ」ハ「ゝ」の字を出さバやのちゞ

同左　の四つありてもそれ悉く云下しのあるハ少き事

九一右　俗語にてゞの意ハのハゝ用云へゝる事

同　の留りハ奇そのより上へゝりてゝゝれる結びゝ哉にハ限
らぬ事

九二右　用の語ゝ云ゝるのゝいふゝハなきこゝおもふよし

同左　用云の躰云にあるハもゝ連用云ゝる定りもれゝまれて
ハ連躰云ゝるも省事

九三右　下知の詞を云ゝるのゝ一条出さバやのさゝ

同　の如くの意ののいゝ古くゝよりあゝ又文まゝもある事

同左　「人あゝとゝゞ」の「ゝ」とゝふゝゝ」ののゝ「よのつゝ」の「ゝ」「やの」のゝハ
きゝにそ又二ゝに小ゝうれのしてある事

九四右　古へのゝ今の古きゝ彩しきの語

同　書ゝ籍ゝ某之ゝゝきつくる数の之

同左　人まゝゝがゝりなゞめゞ奇にもあゝる事

九五右　ゝふゝゝ」のゝと一出さゝるはしき意

廿五左　万八五月之花橘さつきのやとよるハげニ冬ゝるべき事
同　親のゝと云ひおやゞとハいれども母ゞといひて母のゝハ云〻〻ゝ
　　ゝゝひ
廿六右　ホニ似ゝるのといふべきあるべゝゝゝ事
廿七　やとゝと云ひてつゝひさゝの例ニ定例ある事
廿八右　ゝやと云ものゝ云ゝるゝ云外の云ある事
同　云ハ同ゝゝれゝ連躰云をうけてハゝといひ截断云をうけてハ
　　やといふ格
同左　後撰　ゝゝゝハゝのゝゝるゝ冬まゝ　と文字の事　うけてゝゝ我身の上と思きやのとなり
　　ニゝるをきてゝいせとある歌乃
同　人の心ニあゝれやはせぬまどのやゝの誘譯

廿九右　待つやゝを待つゝゝと混ゝゝきゝ諸
同左　んゝ連用截断連躰の三をゝめハ已然云ゝるふんやと云
　　べきをめやといへゝるゝゝ
同左　こゝひざゝめゝもこゝひざゝんゝも
卅一右　アやといふへきをまゝやといへゝる例
同左　まやをまゝゝてゝへきニ付ての事
卅二右　やゝゝといふ辞
同　おいめゝるもく新を入ゝるゝもゝの一本鶴を辞ニ兼ゝる事
同　をやといふ辞
同左　まやゝまゝやたゝるとゝやたゝるものゝゝの事

卅三右　勢語の「ものなもや」ハ真名本ニ「成者」とあれど[illegible]やあるよし

同左　のや　ここや　誰や人　なぞや　いつれも軽く添ふるやゐれも

やの部ニ出べきうれ事

卅四右　さくやうの也」などのやゝ「ゐむやゐぶり」きゝめやゝの差別（ケヂメ）

同左　月やむや　なゝく及字なとのあるそ他ニつの間ニおくやゐの

ちがひ

卅五右　うもゝやも、とゝやゝやの通局、

同左　ぞや　ぞう　れや　れゝ

卅六右　おひめゝも　こひめゝも

同左　ゞふ　ゞゝ　つゝく詞ニつき又きゝく詞ニつくこと

卅七右　動ぬ云ニてむ　ぶ　なゝの類

同　なぞや　ときれ居られる例

同左　なゝせん　ニは俗云ニあつるニ凡そ二あること

卅八右　なゝゝ　ニにくゝ　ある事

同左　なゝ　菓　など云へるしハやはめ辞のさゝ

卅九右　誰ゝ　誰ぞ　又なゝゝ　なゝぞ　など

同　れゝ　さゝ　ゝれのそハれるあるよし

同　いゝ　ニて」ハ形ふ言のこゝろぞ

四十右　いうゝて」の下ハ人と態ぜる事

同　ゝいふ　をてふと芸術を文ニつゝふてろえ

平巻 自下 玉の緒 五の巻

初丁右　○平巻之く緒

□こその結とたゝる詞ハ体言なるが多しといへる事

ハ　試むといふ古くハなき詞なるあり

ハ右　□こその結び辞俗云おのつゝゝうもくるも少うとぬ事

二右　云うけうて□こその辞をむもふ丁九二の例あること

ハ左　□こそ二つゝて結ひ一つなる例、□こそ一つゝて結び二ゝなる例

三右　大ハゝやをゝはの表も云云補よのおと表云云

ハ　却てと入てゝべきもの□もこそ又行末をおしハうる□もこそ

ハ左　もゝ文章ゝもつゝふ例、

已ゝ然ゝる言ゝてもの□もこその結ひのときハ初末を数ゝる

四右　詞なるよし

□おそを表ゝと結べゝる古文

ハ左　まゝうハまゝ□まくゝと活く詞なるあと

ハ　□こそのむ結びゝなる例

五右　□こそゝ云てをゝ結へるハゝと食むをあるよゝ

ハ左　□こそゝ云て尓ゝ結へるも食む意なる事

六右　□こその末をゝもゝいへるも食畜ある事

ハ　□こその末をゝよゝいひて結ふ例

ハ　□こそをゝどゝ結びゝどゝ留めゝるも食畜ある事、

七右　□こそのてゝをゝ頭ハざる可ゝ挙ゝる事ども皆ゝくのハぬゝノ那ゝる

うの考へ

七左　□こその末をべしといふ一格

八右　栄花玉のかざりなる「なるこぐのゝ」[こそ]神ゝくまゝろ」を誤字

うけちぐ

「　連躰言をとゝとうくる一格

「　「とおりへども」「とやゝ思ひし」「あゝなうれて」などいへるゝ

九右　いつゝえきゝそゝ」なゝ「ゝ」ゝとハなきゝと

「　などうのゝり延をゝあやゝなるまづきゝ

十右　のの結をゝがへてゝとゝ文る格

「　「なるゝ叫くゝ」「注くゝ来ゝ」などのゝを與ゝハ得きづき

十一右　「くゝゝそゝりゝぢ」ゝ云ゝを「解くゝ結ひてゝ云ゝもゝち」ゝ原

句ゝいへる例

「　□そゝもゝだなどゝそもゝ二つおきゝそれゝ蔑ぐる処ゝ

一つのゝなる文法

「　□ゝくゝゝ　□くゝゝの云ゝを　□きくゝ」ゝいへる例

「　つれゝハ雖ゝゝ云ゝを雖ゝとのゝいへる可づらひ古くゝ

えゝる例

十二右　□ゝも八ゝ□ものゝへるなり□ゝを略してゝとゝいふゝハ云

きづき事

十二右　なぞ〳〵の辞をなぞもちらんといふ説の是非

同左　なぞ〳〵ハなゝぞなるべきさぐ

十三右　後拾の哥「ゆびやなぞ〳〵きれて落句の「ゆびしき」と別ふ考ふべきさぐ

同左　ちり〳〵まぐふゝ」のゝ「ちりとまぐふゝ」のゝ

十四右　ぬれ〳〵ぬれ」「ぬれぬれ」の類ハ文字ゝ重ねぐ

十五右　古今集の「ちりとまぐふ」のとハての語りといふ説

同左　與并及の字ゝ當るゝハもべて連躰云を受る定り

十六右　万葉二ニ　ちゝかゝと妹ぐ居つゝあらん」のゝハもてゝといふて近きよゝのさぐ

同左　連躰言をバうの與字の云ハ非るゝて受る一格

十七右　ワレコレ故佛トアラハレテ」のゝとゝぐ乃因論

同左　やゝめのをゝ云ひちゝへるを拗用ふゝ定格ある事

十八右　やゝめゝ云ならふをゝ歎息の云味あるゝと

同左　やゝめのをゝあるまじんとも結ぐ、下知のゝ世ゝ云詞ゝて無せるかも非るぐまれゝ付ある歟のさぐ

十九右　かゝ通ふをゝ三ッあるゝ云

同左　いたゝるやもめのをハもべて連用云受てハ行れの詞ゝ付べき事

廿右　古今の「考をぐゝ自へ」のを後拾遺の「達人て人をゝ考きゝ

ろ」ばれを□全く同じきにハあらぬさかさ

同左 万葉なる「よそのみでて云々神の社をねがぬ日ハなし」のを

同 あひみそバなぐさむやとぞ思ひし「ゆ」を採集にハ尓□と有

廿一右 手向にハつゞりの袖もきるべき「ゆ」を採集ハ尓□

同左 人を□とられ」「妻と共とをれなぞとらる」

廿二右 を□尓□留別送別のなちめの有无

同左 塵を□ぢに居ゑじとぞ思ふ」のを□

廿二右 をやへ垣を」などのを□

同左 風を□いふく」などのを□又万葉十二我命云々とらふなり」を□

のを□

廿四右 尓と□へ□との辨別

同左 歎息を含めるに□

同 将然云うけていへるなくにの諺訳

廿五右 なしにの諺訳

同 まどろぬ人にちるまくもをしの?□

同左 ぬれにぞめれ」などのに□

廿六右 なとろて」なにろてなどのとに□

同 蟲に□鳥ろもられハ鉢なんのこも

同 うつ墨なたのさび一もちにのに□

同左 さきのとまわに□さきにかるうも」親うげに□音ハ歩ぬ云々のに□

廿七右　何〻を何〻云云　その語格

同左　用云を受るこそとめの躰用

廿八右　でのあゝをつねのでなどいへるハ至りざらんの論め

同　ずとゝとてと各活用異なる三言あひうけて　ずゝそ　でゝなれる事　約り

同左　れもであるのなどめで別物なるぬ事

廿九右　涼うけで　といつるも涼うけなれでといもんもで別ハ言き事

同左　なもよも歎息同言なゞるつひ処に必差別のある格

卅右　素ハづく同ことてもぞこそなどにかゝりてきれるこつけ

てハよとハ云まゞ必なといふへき格例

同　勿を　のなつひさる二ゐる事

同左　莫を　の云れなの諸用云こつく枕雅語と俗云との差別

略図を按してゆふべきよゝ

同　莫と歎とのつき処の格例混じるじき事

卅一右　莫のつき処田舎の平語こハ古昔の正しきまくあるあり京ハ俗

びハてゝる事

同左　ふき　なちゝしそ　を　ふきを　ちゝしそ　とやらこ唱ゆるも

ろろきよゝ

同　なゐそのなそ躰言用言ともこうけ連用連躰いつれへ

も付る事

同　なゝゝ　ゑれるハ写誤りのさゞ

卅二右　こゝろゝ古人を非議すべゝ〳〵ぢる心得

月左　ちゝぬべゝなどのゝ

月　天の川ゝまつゝろゝ〳〵などのゝ

卅三右　あちゝこゝそなどのゝ

月左　ゑゝゝゑゝずゝなどのゝ

月　なきつ矣ひつなどいふハ雅ゝハなき造語なる事

卅四右　引見縦見　ゆるゝゝゆるへゝよゝさゝ及の誤ゝ非

月左　よゝとなゝとの格例の復のさゞ

卅五右　んゝよゝんなゝ又ゝよゝなどハ両方あれゝどつうひ処ゝゝ

り云ハ判れゝる事、

月　不字の云の辞ゝハ截断のずゝよりもなゝとつゞけるあるちゞ

月左　よゝなハありなゝよハなるき事並〳〵云るなゝよなどのハ異あるを忘

混ゝまゞきえゝゞ

卅六右　よゝ呼出ゝゝと歎息ゝゝ希求ゝとある事

月左　よゝなゝゝゝで歎息のゝと希求をつゝくいゝん為の歎息のゝあ

るゝ也

卅七右　ようやゝといゝ語の事

月左　四段活云の才四音ゝよゝをそゝる例古くもゝくなきゝ非るちゞ

卅八右　やゝめのゝゝの末ゝ将然云の出るゝ已然云の出るゝ且て云バ

へゝちめあるあゝ

卅八左　老いらくそおせらく乃訛語の羽といへる類の事

卅九右　「」きくそまくの活らるるあとと復のさぐ

同左　こまくのほしさ」ハ「こまくほしき」あるを誤りこの

を添へるものといふべきこゝハ非る事

四十右　元真集なる「伊へまそほし」ハ「からはまにし」の誤写な

るあらむ

同左　けくといふハくをのべて云るのこゝハ非るなと

四一右　「のどけく」をのどく「静々く」を誤りくなとハいたれぬを考

ふべき事

同　「」といふ辞のつく延

同左　「」を誤りを誤る格例

四二右　なりし」と格に云ハ非なり「省きし」あるへき類の誤

一六左　元補集なる「おほつらなくぞ」「ちられぬし」ハをと正保板の誤

の誤なる事

○波巻目録

初丁右　「」ずのきゝ格つゝく

同左　「」ぢ　「」ぢ　「」いつれ「」も「」事

二右　「」ぬなり　「」つなり　「」と云て「」なる「」なり　「」なる「」なり　「」とハを「」ハ云て

「」又「」ぬ「」なり　「」つる也「」り　「」ふ「」ひて「」ぬ「」り　「」つる「」り

「」りとハをきくいたぐるさだ

二左三右　ありハあありの約りとのをいへくやあゝびやのちゞ

三左四右　ちゞらハ連用云をうけ又連躰云をうくる事

四左　ちんとてんとのやう去字（ナ）而字（テ）ゴあるうの事

五右　ちでとゝよてゝあれど（メ）てでと云てゝハちゝ、なちのへいけれ

どてちんハけらめ事

八右　べゝ」といへるが正しきなるとを、混へおりふまゞきあゝ

六右　自他の別といふハ大判ゝてたゞ細判ゝあゝある事

八右　ハゝる ハゝる〳〵 ゆゝく ゆゝる

七右　んを已然ゴいへバめゆゑ、どゞ　と受る通例ある事、

七左八右　ありつる」と云て「有めゝる」とハいはぬやうなれど、「有めゝ」と云

いひて「ありつ」や」とハをゝいはぬあゞし、

八左九右　うゝびもうゝぶれ

九左十右　形ふ云のちんのゝある音ゞも凡そ四種

十左　略図の絲擬こゝやうゝて来と去との五種のハゝゝきち

ゆの類ふ類ハぬをよゝ（タグ）ゆゝ　ゆゝきさい

十一左　ちゝバちゝちん　人ハちゝちん、ちゝちんの、ちゝちんちゝちんり

同ゝうゝぬ類きゝ

十二左　ゆゝ来（キ）ちゝ。ゆゝ来（キ）ちゝ。ゆゝ来（キ）ちんの別ちゞの古人のぬゝ（ハ）

十三右　侍（バ）ちんとゝ用ゝる例

十三右
十四右　形ふ云のちん〻とつゆのちん〻との差別のもと附活語雑語（十八）

の条のひゞ云の意り

十四左
十五右　下二段活　えけせてなどようちん〻といへるを四段活のかさ〻

などようちん〻といへるとき　ちゝ　ちどようちん〻と云へる

とに對へて処〻ちてこゝとくべき事

十五左
十六右　本といふ詞のハ〻〻きたゞ一つ濁るさ〻

十六左　五十音才五音ヨ活らく頂ハ本のゝなりといへる事

十七右
日ヨリ　こちん〻　こちん〻　きちん〻をゞ笑ふちん〻ハさきちん〻などゝ對へて

きまり〻

十七左　万葉十七「時多ゝ〻ゝ〻ちん」ハ、なゝ〻ちん」なるべき

をやのさゞ

十八右　続後拾なる「ゆひちらりちん　らと　とのわゝる

日左　ぞの云ゝ通ふちん

十九右　いつゝなも恋ゞある

日左　ま世ゝゞ　ま世ゝゞ　ふたゝ内〻〻る事

二十右　まゞハ不の云〻いちんようハ不可の云〻いちどようんのちゞ

日左　水のゝゝゞゝ　ゝゝせゞ」を　ゝゝきゞ　と語まる本用あ

るまゞきまり〻

廿一右　萬葉集　「ゆりまゞ」とあるハ写悪あるべしのさゞ

日左　ア船　乃船の船をふれまゞ　「れ」と悪俗のよむ　数ひのまゝ古人ゝ

あるべーやの論

廿二右　白菜のこと花とぞ太そまじ字語と正義のとの簡び

同左　ものこと、きーとまじ、このくりこと

廿三右　つしハらへの活用とハいはるまでの事

同左　あらーしとなるらしをいひけしとなるらしをいへる類

ひの事、

廿四右　ならのつき処などあと

同左　万葉三のあるめべーし　同九のあるべくーしやなど

廿五右　きくーしハさむるらし、あらしハなるらしとて、ならし

を離しもならるれど、あらんあらんのらハ上のあと離

したるまもてこるべきのこと八ならぬ多くの類ひの事

廿五左　つ　古来つの秘伝などいふ事なりげなれどいなの事

廿六右　つの委細の論定　此事八二巻のくりこみ

廿六右ヨリ　もあらせべきなり

廿六左ヘデ

廿一右　てしうのうを清むべきもなきに非るべきなと

同左　同じ頭の言のなれど　ちが八用言をうけもが八躰言を

廿二右　うくる事

廿三右　てゐを八古今一格とする事

廿四　むやめやんうもめうも

同左　そくのぴ　そくのぺの辨別　氏巻にもあり　つれぞ後と云

廿五右　初学のなどらんやうくりのハいそ後ちき事

同左　なぞのかを形状言の志にてむすべる例
卅六右　生ける利もなし」の説　生けりともなき由の説
同　希将見君乎見常衣 のよしなき
同左　なきえ人あしくやの」なきなれ事　きこえれど　きしてあれど　きしれど
卅七右　誰ぞ　誰か　同言の事又
同左　誰ぞ何ぞなどとぢくいつる事
卅八右　思ひのそのなど用言を体言にてのとまる例あまたある事
同左　さびるゝさぶるの書損あるべきけぢめ
卅九右　うくそつぬふむゆるらんを総言にては下二段活の第四音にいふ
中二段の活の第二音にいへどつく志人の語は多くはおのづから雅也
にてある事並俗びたるこの造語やさとびのよも見えん
ぬふ非る事、
同左　雨もふらぬ」などいふ調つゞき延言のごとくはなりきいき
どき事
四十右　ゑるをゑれといふ其れ四段に活くと下二段こゝの古今の例
同　んの言のあといふ辞
四十左 四十二右　ん也とゝもみなあれとなきを自らの事にのみいひむは代
のうへにもいふ格例
同左　御といふ辞体言にも用言にもつきて又奇文にもとゞまりあるもあり
同　呂といふ辞は連体言につく例左万葉十六の不念呂を引用

点のオモハヌロのくさよろらんとありつよ〜

四二右　こそ□の結びとなる□けせてねへめれを□そ□ぞこそ、

又ぞや、又を□ともうけ〜ぞや、又う、又ぞ、又こそ□ともうつる

格をさ〜いひさ、兵こだを略きてとしふハ理り当ら

ざらんよ〜

四二左　ねぞ□ぬこ□へぞ□ふこ□の云　の云　の名ごひの考さ〜

四三右　ぬこ□とふこ近〜なゆる□ねぞ□いと古くより少〜ぬ事

四三左　んよりそとい事近〜ゆ□ぞ□

四四右左　ずぞを□そまく〜こ□ちあ□その解釈の試ミ

四五右　ずろん□ずろ□そざろん□ざりろ□を然云るなりと云ふ

ハ及まじきうのさぐ

四六左　けぞ□けん□のけハ過去の志□を去のきの活らきある事

四六　万葉ハある将開可聞サキニケバカモとある古点

四六右　ずろん□のけ□とずろ□ノのけ□とハ異ある事

四六左　よろん□ろん□などのけ□ろ□ど〜ぞ劣（うヂナ）ろん□と又一のは

づひあ〜い〜ぞ

四七右　ぐみ□ぐみ□そ截ろ〜云ふもつづく云ふもつ〜く事

四七左　ぐみ□ぐみ□ぐ古風辞とのミ思孰るまづき事並ゆろく□み

四八右　ろろそれ□と云形ふ（ころ）と〜ろり□ねと云作（ゆる）と〜差別あれぞろ□

をのぐ〜そ〜ろ〜それ□といふと釈くハ空ろ〜ぬ事

四九右　ね[illegible]く　今[illegible]く　なごの[illegible]　[illegible]　皆〳〵一意ちゝげるゝよゝなど

　　才三音（くろ）　など　ゝのびて才一音（ウロ）　など　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

　　云言の出る法語

四九右　ら[illegible]く　ま[illegible]く、ま[illegible]くゝハむをのべゝゝとあるもいれど、然〳〵

　　ぬゝゝ多ゝゝる事

五十右　け[illegible]く　け[illegible]〳〵のけの活らきまゝ　仏ゝゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ

五一右　〳〵くのゝ〳〵あるを〳〵くのひゝとあるべくおりのよゝ

四九左　ゝぢゝぞゝん　あゝる」と土佐日記1又ゝゝる処の考へあゝ

　　はゝゝゝ事

五二右　時ゝ多ゝまつほゝゝゝ」ゝゝゝの事　紫式部家集と拾集（形古）

四九右　ゝとゝゝゝぶゝゝ事

四九右　〳〵ゝゝん」ゝ〳〵ゝゝん」とゝゝゝ云べき河なる義

四九右　をゝし　おゝし　ゝゝのあゝ

四九右　〳〵ゝあひゝゝる」ゝゝゝゝ」と云ゝゝ　〳〵ゝあひゝゝるぶほのゝ

　　ゝて」といへゝゝゝのゝぬゝひの事

五三右　文章ゝきゝゝゝ人のゝ得べき事の一つ

四九左　人ゝゝいちゝもゝゝ」のゝゝゝ出家集と拾集とのゝ分りめよ

　　く味ふべき事

五四右　あほれお「つ」なゝゝ大ゝゝ人ゝゝも知つゝゝとハおのゝゝゝも

　　かゝまゝきゝの事

目下本文に雜れて〻

五四右終行より五九左

○五のをゝり分

○目ノ井七終

五六

五七

五八
五九終

るべきよりやも

此書の卅結物せ〻よう幸頃人の字〻作るなどもハ汲

ゆもべき処あるゆゑなれる事

あ〻ゆる人語を躰用ふるとし、それを又形狀・作用或

ハ無形躰・有形躰・などゝ云ふ凡例

躰用の差、無形・有形・の別ハ、形狀・作用・などの図說、

王緒繰分目錄終